明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雑誌

第貳卷

第壹號

明治三十七年一月二日發行

夕べの家庭に輝く 妻の笑顔……一
西洋のオバさんよりの手紙……四
初夢物語……五
お正月と子供達……一〇
婚嫁せんとする女子諸君に告ぐ……一二
歴史ばなし……一三
良人への慰め（詩）……一五
忙中閑語……一七
結婚奇風俗……一七
妻君の價値……二〇
辰の歳……二一
巴里の猫兒學校……二五
娯樂と健康……二六
バドミントン……デザポール
年の遊……福笑ひ
スクラップブック……三〇
花の課……一家一ヶ月の平均支出額
編輯机上より……三一

8476

由分社

東京市京橋區新湊町一丁目十七番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寫眞器械各種

改正
目録進呈
送税六錢にて

●歳始賣出し
前代未聞大割引

サンカメラ 附録付
名刺形 三圓
手札型 四圓半

東京市神田區旅籠町一ノ廿一（御成道）

寫眞器械及諸材料輸入製造販賣
東京寫眞館
電話下谷八六五

●本誌定價及廣告料

一部	一ケ月	六ケ月	一ケ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料――特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は毎月一回（二日）發行とす。
一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
　但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事。
一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。
一、爲替振込局は芝口局宛受取人は由分社宛の事。

明治三十七年一月一日印刷
明治三十七年一月二日發行

發行兼編輯人　東京府豊多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地　西村渚山
印刷人　東京市京橋區日吉町十番地　中村彌助

發行所　東京市京橋區新湊町一丁目十七番地　由分社

大賣捌所　上田屋　良明堂　東京堂　東海堂

印刷所　東京市京橋區日吉町十番地　近藤商店

EALJ-M
Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雑誌

第貳卷 第壹號

夕べの家庭に輝く 妻の笑顔

新年に際して、自分は題の如き一篇を草する。

夕べの家庭は一日の中で最も楽しい時間である。朝は社會の戰鬪塲裡へ出陣する夫への心遣ひや、其他一日の仕事の順序を考へる事やらで、細君の一身は多忙多端、愉快と云ふよりは寧ろ嚴肅と云ふ調子を保つて行かねばならぬ。これに反して、夕べは實に極樂天地、慰安の世界、細君たる者がその天禀の才能と手腕とを振ふは此時より外にはない。無邪氣で快活な性情なれば、何處迄も遺憾なく發展せしめるが好い。

午餐は淋しく獨りですませ、頓て一時、二時、三時、もう四時ともなれば、近頃では日が短い事故、細君は家政事務に一先づの結末を與へねばならぬ。假令急がしい晴衣の仕立であらうとも、臺所仕事が重つて居やうとも、帳面の勘定が合はなくとも、乃至は小説本を手離す事が身を切るよりも辛い時でも、新しい職務に當るべき時刻が來たのであるから、萬事を差置き、急いで美しい顏を見せる、準備に取りかゝるのが當然であらう。

終日――朝表まで見送られたきり――顏合す機會なしに、外に出て居た夫なる人は、云ふ迄もなく其頭腦、其神經に著しい、疲勞を覺え、我家に向つて足を運ばす事は、天國の門を夢見て驅付けやうとするのと、同じ思ひがする位であらう。夫の心はうへたる狼の肉塊を欲するが如く、しかく平和、慰藉と云ふやうなものに向つて戀々の情を禁じ得ない。夫が家庭なるもの丶眞價を知り、更にその有難さと樂しさとを感得するのも皆な此瞬間に外ならぬ。

さて待ちに待つた戀しい夫が歸宅する。細君は定めしシャベりたからう。一日の出來事小さな家庭乍らも

Digitized by Google 135273 Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

異つた話、面倒な話、實驗から來た生活法の改良意見、それは山程たまつて居る事であらう。これを細君が細大洩らさず、長火鉢の前へ座つた斗りの夫に報告しやうとて急ぐのは、親切めいて其實大に不用意極まる。何となれば、夫の希望する所は、只もう休養と、心を轉せしむべき境地とにあるので、歸り早々、亦も繁雜な事務煩慮の海へ足を入れやうとは、露程も願ふて居らぬ。これ細君が特更に反省すべき條目の一つ。

一體夫と云ふものは一家を維持に對する全部の義務を負て居る。されば、其責任を果す爲めには、如何程寒い日でも堪忍して、朝早くから出掛けて行かねばならぬ。出掛けた以上は勇奮努力、一日の糧を儲けねばならぬ。一方の妻の責務は同し事務でも此側になくして他の側にある。それは自分の家をして出來る丈け愉快に和氣靄々たらしめ、又疲れて歸る夫に對して、出來る丈け愛嬌を保ち、恍然としてその美に醉ふて了ふやうな工夫と機轉とを辯へて置かねばならぬ。之が細君の義務である。夫が若し何時もより快活の氣を帶びて歸つて來たならば、妻も早速それに應じて活潑に花やかなれ。若し又ひどく打沈んで、喪心した人のやうな、心細い姿を見せるならば、妻は矢張憂ひを含み、如何にも同情の深い言葉と身振とで以て、我部屋にと迎入れよ。妻の用意はそればかりではない。場合によれば、夫に直樣外出を迫られても、二つ返事で同伴する勇氣と覺悟があつて欲しい。又夫が管々と自分の職務上の事を説明し、其日の出來事を不平まじりに話し出しても、悧巧な妻なら冷やかな顏して聞いては居らぬ。趣味のない物語に故意と自分で興味を付けて聞く。つまらぬ話柄でも機智に富んだ細君は、其話を面白くして了ふ。

總じてこの悧巧な細君ともあらうものは、一方に妻であると云ふ事を自覺(無論の事だが)して居ると同時に、他方に於ては親しい友達であると云ふ事を忘れて居ない。それから夫なる人の職業及び其目的に對しては、充分に自分の精神と趣味とを打込み、夫が一歩進めば自分も亦一歩進み、夫の話なれば少し位 其職業柄

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の術語を使はれても、直に飲込めると云ふ程の準備もある。されば、家政の諸務に追はれて、實際に其準備が出來ぬとならば、切めては其夫の職業に對し、深くして強い興味を持つて貰ひたい。若しくば持つやうに心掛けて貰ひたい。

夫の歸宅する時間間際にはもう豫め友達と會はぬ工風をするのがよい。平生から夫の虫のすかぬ友などには猶更注意し、會見するなら留守の間を選ぶが上分別である。縱し又無理して逢へばとて、夫が次の間に咳をして居るとか、玄關に夫の靴音が聞えるとか、絕えず穩かならぬ胸に動悸が打つて居るならば、好いた同志の會見も何れに面白味があらう事か。誰も經驗で先刻承知の事項だと自分は思ふ。疲れた夫を慰める役目を控えて居る妻は、斷じて空話に時間を空費すべきでない。

洋服を和服に脫ぎ換えた夫、ポートフォーリオを投出して茶の間の火鉢へ陣取つた夫、袴を脫いた夫、やれと〳〵溜息を吐いた夫。それには妻も進んで煙草を吸付けて出さねばならぬ。夕の化粧を了へ、一枚着換えてちんと濟した後だつても、次第に依れば、按摩の役にも立たねばならぬ。又醫者の代理をも勤めねばならぬ。要するに、夫をして其瞬間、かう云ふ感に打たれしめるのが、細君の伎倆であらう。即ち、『朝から夕方迄、此家の主君となるものは妻であるが、夕方から朝迄の主君は余自身である。あゝ愉快々々。』と。

次に來るべき妻の用意は晩餐の調度であらう。こゝに取別けて云つて置かねばならぬ事は、物質的滿足の人心に於ける影響の大いさである。誰だつても、まづい、意匠のない食物を侑められたばかりでは、舌も打てず感心も出來ず、從つて疲れた身體に勇氣が生出やう筈がない、愉快にあらう筈がない。人間の一面は肉であるから、事情の許す限り其方面の供給を怠つてはならぬ。辨へのある細君はこゝらの機微を嚙別けて、晩餐のテーブルは最も賑かに最も奇麗に、そして最も有滋味たらしめる事に苦心する。併し苦心と云つたとて、無闇に御馳走するのではない。月々二三十圓位の俸給

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

で、何故夫が毎夕餉の刺身を要求する理由があらうや、苦心はそこでなし〳〵經濟に相應した配分の宜しきを得る事にある。斯樣にして、其食事中、妻は注意して好ましからぬ話題を避け、力めて晴れやかに花を咲かす工夫を案じて居たならば、疲勞した夫の神身は忽ちにして回復の快味に接し、更に明日の戰鬪準備に、多大の元氣を覺える事であらう。

夕べの家庭に輝いた妻の笑顔！　女の笑顔にはいろ〳〵と種類があるが、恐らくはこの夕、美しい顔に浮んだ笑ひ程、効力あり情味あるものはないかも知れぬ。夕の笑顔は女王の最も麗しい笑ひの如くであつて、又直ちに玉の如き光を持つて居る尊むべき笑ひである。世の結婚者が最後迄其幸福を維持し、擴張して行く唯一の鎖があるならば、それは云ふ迄もなくこの夕の笑顔其物でゞもあらうか。

△君は花嫁さんと、どうして毎日暮らして居ますか。
▲そうですねえ。一所に座つて、お互に瞶みッこして居るのです。

西洋のオバさんよりの手紙

一　初めて出産した姪の許へ

赤児がオギヤー〳〵と泣く時に、お腹がすいたからだとばかり、一概に早合點してはなりません。同一の臥床に、餘り長時間寢かせて置くと、自然柔らかな肉體が壓せられて、折々その苦痛を訴へる事がありませう。其樣な時にはお前は、早速身體の向きを變へてやらねばなりませぬ。次第に依ると、赤児はその着物が堅さより窮屈を感じ、それでオギヤ〳〵をきめる時もあります。無論身體に氣候の變異を覺えた時などは必ず泣きますが、此樣な時分には又それ〳〵應急の方法があります。

二　若い奥樣方へ

皆樣の美しい顔が、世帶をお持ちになると、直ぐにきたなくなり、見違へる程老けてお見えなさるのは、口惜しい譯のものですねえ。

皆樣が良人をお持ちになると、何故其樣にびく〳〵世間を恐がるのでせう。自分で彼の人と信じた上で結婚したものに誰に憚る處がありませう。どし〳〵と衆人の前へ手を取合つてお歩きなさい。妻の役目は家政を整理するのみとは申す迄もない事でせうが、年が年中長火鉢の前に座つて居る事が、必しも家政整理に上手な人と限つた譯ではありません。平常は大變なおしやれであつた人も、思ひ切つて化粧を怠り、髪等も一向氣にしないと云ふのは、如何なるお考へでありますか。世帶持と化粧とは一致せぬとでか、但しは又好いた人を生捕つて了へば、最早大安心。化粧なんぞうるさい事をするには及ばぬと、かう高を括つてか。さりとは、生捕られた良人の不幸如何ばかり。要するに、妾の望みは、皆樣が妻たるの覺悟を持つと同時に、一面には矢張無邪氣に遊び好きの娘の心を持續けて欲しいので御座います。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

初夢物語

―初春のまどひ和氣靄々―

新春の壽を祝す屠蘇の、醉まだ醒やらずして、日影温かに照せる椽に、長椅子持ち出し、横ざまに仰臥しつゝ、賑かなる新年の諸雑誌など、彼是となく披き見る程に、

『お叔父様、お芽出度う！……』

これも例には洩れぬ門禮の客、兄姉弟妹打ち揃ふての四人に、長年の忠勤とお褒を頂く、乳母のお傍附添たり。

中學の制帽制服したる武雄、蝦茶式部に粧を凝したるは梅子、袖長々のお被布も友禪に、頭髮もお下の可愛しきは、末の松枝と云へる女、筒袖の紋付に、小倉の袴を胸高にしたるは文治となん申す、活潑なる男子お傍は小さき丸髷を頭に頂き、御拜領か、紋付の羽織は。

配られし包より、密柑やら、お菓子やらを思々に取り出して、叔父の椅子をば圍みつゝ、ずらりと座りき。皆莞爾として。

『ハヽヽ、武雄、何かお正月に面白いことがあつたかえ……』

『ふふん。』

と笑ひしは武雄にて、それを引き取りしは弟の文治。

『えゝ、お叔父樣、僕が云ひませうか。ねえ僕がさあ……』と得意四邊に人なきばかりなるもいと可笑し。

『ハヽ文治、汝あるかい。さア云つて御覽、さア私も聞かう……』

『ぢやア申しますよ。可いんですか。あの僕はねえお叔父樣、初夢を見ました……』

『あら妾も……』

『妾も……』、幼子も合したので、乳母も、

『あの乳母も見ましたので厶いますよ……』

『おや乳母汝も、然う……、あのお叔父様も御覧になつて……』

『ハヽ私かい、うむ見たよ。それは中々大したもんだ

よ……』

『あら虚言を……』

『うむ姉さん、お叔父様のは虚言なんだよ。だつて、お寶なんかないんだもの、ねえ姉さん、僕なんぞはねえ、あの乳母が整然として呉れたんだもの……』

『ハヽ私だつて整然と床の中に敷いたよ。あの長き夜にだらう……』

『えゝ然うよ……』と、それは不思議と眼丸くして疑かるも可笑し。

『ぢやア、かうなさいましな、あのお叔父様のお話を伺ひませうぢやアムいませんか、それが可しいでムいませう……』と、仲裁に入りし流石に乳母の計には、誰も彼も、うむ可しと嬉しがるなれど、そはいと叔父には思も寄らぬこと、さりとて辭も出來ねば、

『ぢやアそれも可らう、けれどな、私ばかりもなんだつて、獨ばかり云つちやあ面白くないから、かう皆でやらうぢやアないか、籤で順を極てね……』

これより此處に樂しき、初夢物語の會は開かれぬ。

籤の順は、松枝、梅子、お俊、武雄文治と定りて、最初に叔父の私も。

一　松　枝

あの妾のはねえ、可笑いのよ、あの乳母とぽちとあの妾と、お庭で遊んだのよ。而してねえ、あの乳母とぽちとが馳事をしたの、乳母は人でせう、ぽちは犬でせう、負るわねえ人だもの、妾はねえ大切な乳母が負ちやアと思つてねえ、涙が出たのよ。其處へねえ、綺いな西洋人が來てね、乳母にこれをと、羽の様なのを貸て下さつたのよ。乳母がそれを付けたら速いの何のて、それアもう大勝利なの。妾も嬉しくつて堪らなかつたので、乳母〳〵と云たら、眞の乳母に起されたの！

二　梅　子

妾はねえ、あの演奏會の夢を見たのよ、あの新年の大會なので、聽衆はもう廣い講堂に溢れる様なのよ、其處へ出で妾も演のだと思ふと動悸がして、自若して居られないし、種々と前に演られる方のなんか、耳に

入らないんですもの、妾の演るのは合奏でせう、ほら番組の通りね。お琴が、妾と葉山さんなんでせう、胡弓が前塚先生に、三味線が藤間先生に渡邊先生なんで、あの葉山さんなぞも、大層な人なので、まご〱して、二人で彼方へ行つては如何しませう?、此方へ行つても困つてねえ、と、着々せずにして居ると、向から襟高々とした厭味滿りな紳士が二人來まして、番組を見てから、この次の次の三曲が聞きもんだと話合つて行くので、おやと二人は顏を見合したのよ。それから番が來て、演壇に上つてしやんと合せると、拍手喝采なのでせう、耳も潰れさうな、何もかも夢中で演じ終りますと、ばら〱と急雨が家根を打つ樣なので、先安心と葉山さんと扣所に行くと、今は嬉しさが出て來て、走て行く拍子に、一段石を踏誤たので、他の方々がどつと笑はれたので恥かしいと、運動塲に行くと、づどんと大砲が鳴つたので、おやと思ふと、眼が醒めて仕舞ましたの……

三　お俊

あゝ嬉しう厶います、お兩人樣もあゝ云ふ夢を御覽になつて、まア旦那さま、眞箇で厶いますよ。お寶を敷きますと好い夢を見ますと申しますのは、へえ乳母で厶いますか、もう妾ども何も、いゝえ厶いませんので……まア申上げませうか、旦那樣や奧樣、それにお子供樣方がからお揃なさいまして……あの何で厶いましたよ、もう廣々美しく花の咲亂れて居りました園の中を、松枝さまと梅子樣とで、お可愛らしい唱歌をお歌になつて、妾も欣んで伺つて居りましたら、まア何と申しませうか、雪の樣な白い衣を召した天女と云はれる方が、お出でになつて、これを女のお主人に差上げてお呉れ!これは一つは愛の花で、一つは情の花なのだ。これは家庭が圓滿に治まると、枝が榮へて、いゝ果がなるのだよ。これを神さまから、お主人御兩人樣に、良い家庭を作られたお褒美だと、云はれましたので、嬉しくつて堪らないので、早くお嬢樣に御見せ申さうと存じて、お尋致しましたが、お聲ばかりでお姿がない、さてはと驚いてお嬢さま!〱と、大聲で

申し上げましたが、お返事がないので、失望して横になると、耳の上で、可愛い聲で、乳母〳〵と仰有からはいと眼を醒すと、オホホ夢なので厶いましたよ。

四　武雄

僕ですが、ハハハ初夢なんか知らんのですよ。實際昨夜、友達の宅でかるたがあつて、徹夜したもんですから……ハハ今夜が僕の初夢なのです、もうお寶も初驗がありませんかしら……

五　文治

叔父樣、僕は大いに見ましたよ。あのねえ僕は自轉車に乘つて、富士山に行つて、劍が峰で軍歌を唱つて面白かつたのです。僕はねまだ見たんですよ、お母さまが洋服でね、舞踏されて、お父さまがお能を舞はれましたの、さうして僕が劍舞をして褒られたの……あゝ面白かつたのよ、また今夜も見るんですよ、最と愉快な奴を……

六　叔父樣

ハハ私かい、大變に面白いんだよ、いゝえ實際なのさ、あの私がねえ、あの三脚臺に腰を卸して、畫板に向つて寫生をして居るとねえ、一人の西洋人が來てね笑つたのさア、私の繪を見て。さうしたから、私がドイツだと云つたら最早オランダだよ。それからねえ、一人のまア梅ちやんの樣な蝦茶先生か、やつぱり繪を畫いた居つたのだ。さうするとねえ、また一人の髯むぢやの西洋人が一寸見て逃げたのさ、で私も可笑しいと思つて、行つて見ると、林の中に日の丸の旗を建てたのが畫いてあつたので、そこで、女學生が私に、あの今の西洋人は、何處の人なので厶いますと云つたから、あれア多分オソロシアと云つて逃げたから、露西亞だろうと云ふと、何故ですと云ふから、貴女の繪に日本人が圓滿に和合した家庭を作つて居るので、不作法な彼の國人が面目ないつて逃げたのでせう、と云つて答へると、あゝ然うで厶いますかと云はれたから、私も彼女に、貴女も女だ、良い家庭をお作りなさい、良家庭は一家の光、一國の花ですと云つたら、他人もヒヤ〳〵と云つたので、私も嬉しいから、手を拍たう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とすると起された……
楽しい夢物語は笑の中に終りたり。乳母のお傍も嬉しいと云はぬばかりに、
「まア、面白うムいました、然うでムいますよ、一家の不和では、え丶然うなのでムいます、眞實の事なのでムいますとも、まア嬉しいお話を伺ひました……」
と云へども、
「お叔様、それが面白いと云ふの……」と、何やら興なきやうに云ふは文治。
「あ丶然うか、ぢやア叔父様が、その代りにこれを上やう……」
ボン〳〵の一皿を差出せば、皆莞爾としながら、
「うむ、この方が僕は賛成です……」と、文治の云へば、さなりと頷くも可笑しく、小兒然として最愛らしう見ゆ。
「さアもう、お暇致しませう、ねえ、只今のお話を、お父さまやらお母様に……」
「いや僕は、これが好き……」
「あら、何を仰有るので、文さま……」
「ハヽ、乳母には駄目だらう、歯なしだからねえ……
……」
「あ丶文さん。……」
「おや姉さんも、齲齒なの、さう、それはお氣の毒だなア、兄さんと兩人で占領です……」
「さア若様、後くなりますのでムいますよ、またかるたが……」
いゝかるたの聲に、流石の文治もぐらと來てか帽子手にして今度は、
「左樣なら、さア速く……」
と促す。
「まあ若様は……」
と、乳母が云ふのも知らずに、文治は門外に出て、聲も高々と、天地も榮ゆる大御代はと唱歌歌へば、梅子走つて、後を續けつ丶、彼方にと見送れば、獅子太鼓、萬歳の聲など交々聞えて、都の春ぞ賑し。　（麻山生）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お正月と子供達

「もういくつ寝ると御正月？」と云ふて、子供等が樂みにして居たお正月も、忽ちに參りました。そこで小供達は、各々の好みに從ひいろいろの遊戲をして、一日樂しく遊び暮します、其の遊戲の中にも一般に行はれますのは、男兒の凧揚げ、女の兒の羽子つきでしやう。此の二つの遊戲は何れも善い遊戲であります。何故ならばどちらも上を仰向て居る遊びゆへ、身體を直眞にして、肺臟へ充分空氣を入れる事が出來ますし、又あちらこちらと歩き廻り、はね廻りますから非常な運動になります、其の外、凧の風に吹かれる爲に糸に力がはいりますから、兒童の手や皮膚の感覺を鋭くすることが出來、又羽子は、女の兒童達の、眼と手との動作を鋭敏くして、大いに心の動作の助けとなります。

又、男の兒も、女の兒も、とも〴〵にする遊戲には、歌加留多、双六などがあります。歌加留多は戀歌でないものを選んだものならば至極面白い遊戲で、爲にも

なります。何故と申せば、兒童が一心に加留多の文字に注意して居て、讀者の聲を聞くと、直ぐに手を出して取りますから、大層心の動作を敏くして、同時に文字を覺えます。併し、双六は、餘りよい遊戲ではありません。此の遊び方は、自分の勞力で進むのではなくて、まるで偶然ものでありますから、此樣な事を何時までも小兒が好む樣では、成人になつてからも、順序正しく、苦しい事を耐ゑ忍び、終に大きな事業を仕上ると云ふことを嫌ひ、ぬれ手で粟を握む樣な、俗に申す「山氣」を起して、仕方のない者にならぬとも限りません。それ故、なるだけ、此樣な遊戲は、させぬ方が宜しうございます。其の外此頃は、厚紙や板で製ゑた、メンコとか申して、打合で、取りやりする遊戲がありますが、是れも亦、甚だ宜敷ない全く賭博のやうなものであります。

それから、一月は何處の家庭でも、一年中で、一ばん來客の多い時でありましやう。そしてお客が來ると、何處でも、大概酒を出し、御馳走を侑めます、全體、

子供は珍しい客の來るのを喜ぶものでありますから來客が來ると外に遊んで居ても、內に歸つて來て、來客の側に立て、見て居る樣な事が多いものです、そこでいろいろ御馳走が出ると、自分も欲くなるものですから、「あれ〳〵。」と指して、母親などに、ねだります。此の時一概に、此の子は意地汚いとて、叱るのは無理です。子供は場所も時も辨別へるものではない。何でも自分の好きな物を見れば、欲しくなるのが性質故、成可なら、子供が來客の前に出ぬ樣に何か外の面白い事をして、心を其の方に、まぎらすやうにするのがよろしい。又、お客に參つた人は、みだりに、子供に食物を持て行つてやつたり、行つた先の家で、自分に出した御馳走なり御菓子なりを、子供に採てやつたりすることは、甚だ善くないと思ひます。

殊に、御正月には、何處の家庭にも、餅がありまして、子供が行くと、直ぐ、之を燒いて、御愛想にすると云ふは一般の風でありますが、之は最も注意せねばなりません、現に私の所の子供は、自分の家庭では大層、食物に氣を附けて居りますのに、近所の家で「豆いた」と云ふ、駄菓子を頂いた爲に、急性の痙攣を起こし、夜中に醫者を迎へるなど、一時大に難儀致しました。それゆへ、お客に行く人も來客を迎へた人も、子供に對して、決して、猥に間食をさせるやうなことをしてはなりません。來客を引き受けた家で、來客に物を侑める時には、なるべく子供を避けるやうにしたいものです。酒、煙草など子供の用ゐて良くないものを侑める時などは、なほ更のことです。（松野とき子）

菜と葱

或男が妻に知らさず、畑の空いて居る所へ菜の種を蒔きました。妻も亦それと知らず、同じ畑へ葱の種を蒔きました。互に心の中で早く早くと、芽の出るのを待つ居ると三日五日の後には菜も葱もそろ〳〵芽出し初めた。すると、夫は葱の芽を雜草と思つて拔き捨てます。妻も亦菜の芽を雜草と心得て拔き棄てました。かくて二人は十日餘りも待ちましたけれども、畑には何も生えません。である時夫が妻に、妻は夫に話合つて、初めて其譯が分り大笑ひであつたと申すことです。家庭のうちにはかう云ふ事が往々あり勝ちではありませぬか

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婚嫁せんとする女子諸君に告ぐ

旭山生

婚姻とは之を一言にて申せば、男女が結合して此に共同生活を始めると言ふ事である。是れは當然の定義であるが、さて此事を熟ら〳〵考へて見ると、仲々人世の大事件となる、先づ此社會の起源即ち人類共同生活の起りが是れなのである。それから男女が結合をすると、勢ひ新に一家庭が成立されねばならぬ事となる。そうすると、今度は其家庭に小兒が產れ、其家庭は小兒の爲めには最も感化力の強い敎育所となり、從て次代の民人、次代の社會の精神を造り出す處となるのである。此の樣な譯で、一の結婚が此世に及ぼす影響は大体に於ても之れ程廣く、實に結婚は大事業なりと言はねばならぬ。今此大事業に就かうとする女子諸君の爲めに、一言申して置くのは無要の事ではあるまい。

余は多くを言はぬ。諸君が將に婚嫁を決心せらる、に當りて、深く其の重大なる事件なることを自覺し、そして是を立派に仕遂げて欠けたる所の無い樣にするのは人の此世に對する義務である所以を悟り、如何なる障礙が出來ても、如何なる困難に遭遇しても、挫けたり、怯るんだり、決して爲まいと言ふ覺悟を仕て貰いたいのである。

月に村雲、花に風、有爲轉變の此の世の事は仲々思ふ樣に行くものでない。諸君と思想の全く相反する、頑固な舅姑を持つた家庭があれば、家計の甚だ貧しいのも有る。先づ不足が無いと思へば不慮の禍が來る、それは〳〵困難の多いもの、「四海浪靜か」なぞと言ふ氣樂なことでは行けぬ。諸君は崎嶇として又曲折せる山道に重荷を負ふて行く如きものであると思ふ。

されど諸君、想を一轉して、自己の境遇の一面を見よ、今相許すの男子を得て、是から其人と一生涯を偕にするのであると考へたら、諸君は實に幸福なる身の上となるで無いか、更らに彼の耶蘇や、釋迦や、孔子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の樣な聖人でも、ワシントンや、グラッドストーンの樣な偉人でも、皆諸君が將に成んとせらるゝ如き、家庭より産れて來たのであることに想ひ及ぼしたら、其結婚が實に神聖なるものとなるのであらう。

此の如く、幸福なる將來を持ち、神聖にして偉大なる事業に執り掛らうと言ふのであるから、「浦船に帆を揚げて」「四海浪靜かに」など夢想に耽るのは大なる間違である。予は實に切望する。諸君此期に際して、先つ粉骨碎身、不撓不屈の覺悟を堅められよ。諸君の天職を成就すると否とは唯だ斯の一事で決せらるゝのである。當世の女學生諸君抔は果して此心得があるであらうか。

姫御。私の良人となる人は、男らしくつて才氣のある………

若者。貴女と二人がボートで乘出し、顛覆したら貴女を助けます。

姫御。それは男らしいでせうけれど、餘り才氣がなさすぎるわ。

若者。いゝえ、才氣もあります。態々私がボートを覆へすのです。

歴史ばなし

――勇しき少女ヘッチイ、マル井ン――

植村流星

此のおはなしは、亞米利加獨立戰爭の際、美談多くあるが中に少女美談として當時もてはやされたる事實談であります。

アメリカ獨立戰爭の頃、ある所の知事をつとめて居られたグリスオドルと申す人がイギリスの騎兵隊に追ひつめられ、這々の体で或る自分の親戚の宅へ隱れました。敵の騎兵隊では眼を皿の樣にして探して居りました。やがて其所と見當が付き、殺寄る用意にかゝつたと云ふ報告に此方は驚くまいことか、もはや是迄と覺悟はしたものゝ、出來る事なら落延て、身の安全を計らうと思ひ、いろ〳〵思案すると、丁度此邸の裏手に川があな、これは上々此川の葦の中に隱れて見やうと、裏の果樹園から川の方へ大急ぎに走つて行くと此所には意外にも十二歲ばかりの小娘が、洋布を晒すとて、草の上に布を一杯に押擴げ、水を注けて居たのを見ました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の時グリスオドルは自分の逃路を此の娘に見られては、都合が悪るいと思ひまして、娘の眼から離て垣根を飛越ました。すると、娘は今まで餘念なく洋布に水を注けて居ましたが、人の來る氣勢に眼敏く見附て最初は盗人かと思ひましたが、良く良く見ますと自分の叔父さんであることが判然ましたから、

「ホヽ叔父さんではありませんか。妾眞實に驚きましたよ。何かなさるんですか？」

と尋ねますと、

「おーお前はヘツチイではないか？いまね、イギリスの兵隊共が、私を探しに來るのだから兵隊が來ゐ前に逃げんければ私は殺される。お前に賴む……どうぞ仕事を止めて、此處から彼處へ往つて呉れ。兵隊共は、きつと、知事のグリスオドルが此の路を通つたであろうと、お前に聞であらうが、さうしたならば、お前はね、知事さんは、今、郵便車を目懸て、彼の路へ走つて往つたと云ふて呉れ。すれば兵隊は引返して、其の方角へ往くに違ゐない、私は直ぐ舟を發見に川下へ行かなければならんから子……」

「だつて叔父さん、眞實でないことを如何して云はれませう！何故貴方は逃路を妾にお聞せなすつたんですの？知らなければ一層知らないと云ふ事が出來るのに……チエ左樣でしやう叔父さん。」

「ウム……それではヘツチイお前は私を敵に殺させやうと云ふのだな。チエ……ソラ敵が來た樣ではないか……馬の足音が聞えるが、ヘツチイ助けて呉れ。私の云ふ通りに云ふて呉れ。神がお前を惠んで下さるから……」

と云へば、娘は、

「どうして、そんな事がありますものか！嘘を云ふものが惠まるゝ筈がない。併し、叔父さん、御安心なさい。兵隊が妾を殺すと云つても、妾は貴方の逃路を話しませぬ。お急ぎなさい……サア早く……早く。」

い、い、とせきたてたが、あゝもう逃げるには遲くなつた。何處へ隠れゝば宜いか。

「叔父さん早く寢轉びなさい。妾が洋布を被せて水を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

注けて居ますからサア……サア。」
と云ひながら手早く洋布を取りあげましたから、グリスオドルは狼狽て
「おーそ……それよりほかに、仕方があるまい。」
と云ひながら、寝轉んだ上に八重疊疊、幾重となく洋布を疊みかけ水を振りかけて居ました。

。　。　。　。　。

所へ騎兵の士官、馬を飛ばして遣つて來て、
「コラ娘、此の路に一人の男が逃げ往かなんだかッ？」
と聲高に喝せばこちらは平氣で、
「お、左様で御座いました。」
と云ひながら、尚も續けて洋布に水を注けて居りました。士官は更に、
「然らばどの路へ往たか？」

良人への慰め

[illegible]子

名なしとて何をか憂ふ。
貧しとて嘆くことかは、わが良人よ。
君は何とてわがこゝろ、
つきぬ寶と見玉はざる。
浮世の風は荒くとも、
得こそ入るまじ、このわが家。
君ともろ共永久の、
契の春に住まんには、
何を此の世に求むべき。
清く暮さんもろともに、
高く祈らんもろともに。

「それは話さぬことを約束致しましたから申されませぬ。」と云はせも果てず、士官は少しいらだッて、
「それはお前のためにならぬが、よろしいかッ。」すると娘は、
「妾は妾の約束を守らねばなりませぬ。」
と云ひ切る様、到底も打明さうに見えませぬから、案内して來た男、
「私が此娘を識て居ますから聞いて見やう。」とて、娘の傍へ寄り、
「お前はヘッチイ、マルボンではないか。」
「左様ですよ。」
「それではお前に聞くがね、逃げた人はお前の叔父さんであつたではないか？。」
「その通り、妾の叔父さんでありました。」
と云て洋布を眺めて居た。士官は、その時まで默つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

考へて居ましたが、急に思ひ出した様に、

「左様か、逃た男はお前の叔父さんぢやつたのか。そんならば、此處を通つた時に何とか云ふたぢやろう？」

「ハア、殺されてはなりませぬから、逃げんければならないと申しました。」

「それは眞實であらう。確に此處に逃げて來た様子。まだ遠くは往くまいが何方へ往つたか？」

「叔父様は舟を發見る積りで川へ行くが、貴方方には郵便車をめがけて往たと云ふて呉れと申されました。」

「それで判つた。お前は良い娘ぢやぞ。併し叔父様の命を助ける爲めでも、嘘は云はれないとお前が云ふた時に、叔父様は何と云つたか？」

「それでは叔父様を敵に殺させるつもりかと申されました。」

「あゝそうか、其の時にお前は、自分が殺されても叔父様の逃げた路を話さぬと約束したぢやナ！」

「へい左様です……。」

と答へながら、涙を流し、下を向いてしまいました。

「叔父様は嘸喜びなすッたであろう。精一杯に逃げたぢやろうが何方へかねえ。」

「あゝそれは申されませぬ。」

士官はうなづきながら、

「そう、そう、己が忘れたのぢや。併し叔父さんは一番お終ひに何と云ふたか。決してお前に迷惑はかけんから、それだけを聞かせて呉れ。」

「ハア、叔父さんは、おーそれより仕方があるまいと申しました。」

と云ひ終るや、大きな聲でワッと泣き出し、ました。兵隊共は聞だけ聞たと思つて居た處へ、向側の岸近く浮で居る舟を見たので、望を絶て空く引揚て仕舞ました。其の間、**グリスオドル**は息を殺して、洋布の下に隠れて居ましたが、兵隊が引返したと聞き、初めて自分の舟に乗て安全の地に落ちつきました。程なく平和になつてから、生れた自分の娘に勇ましい姪の名を貰ひ、永く忘れない紀念としたとは、何と諸子聞くも樂しい話だと思ひませんか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

忙中閑語（二）

枯川生

◎渚山君足下。お約束の日限を過ぐる事既に二日、誠に相濟みませぬが、とう〳〵何んにも出來ませぬ。と云つてそれでも濟むまいからと、コンナものを差出します。どこかの隅の埋草にでもして下さい。

◎小生は常に人に向つて、僕の家は公明正大な家だと云つて居ります。それはナゼかと云ふに、小生の家は御存じの通り外から見通しで、一室と雖も（と云つて僅に四室しか無いが）秘密な室はありませぬ。小生の家の表を通れば、小生が机の前に座つて本を讀んで居る處、小生の妻が長火鉢の前に座つて子供を遊ばせて居る處などが見えるであらう。小生の家の裏を通れば、女中が臺所で大根か何か煮て居る處が見えるであらう。小生は決して留守を遣ふ事は出來ぬ、小生の家には鹿爪らしく玄關からやつて來るお客は甚だ少い。大概なお客は庭から椽側に廻つて座敷に上る。椽側に腰かけて濟ますお客も甚だ多い。此頃では午前中椽側に日當りが善いので、椽側の方が上席になつて居る。

◎然し餘り外から見通しで困ると云ふので、枳殼の生籬の上に目かくしの板塀でもしようかと云ふ説が、無いでは無い。然し又考へて見れば、往來の人を眺めながら、往來の人に見られながら、野遊山然として晝飯を食ふ處などが、却つて一種の趣味で

結婚奇風俗

朝鮮の花嫁は婚禮の席で一口も言葉が出せない。丸で唖のやうに默つて居なければならぬ。若しうつかりとして居た爲に、一言でも口へ出すか、しやべりさうな口振なにかをしたら最後、花嫁は親類友達から嘲られて馬鹿にされて、その上身分迄も永遠に落されて了ふとの事である。

英國でも田舍の方へ行くと、百姓衆の間に奇風俗が澤山ある。

結婚の當日、二人の若者が牧師の宣告を受けると、直ぐに花婿の方が花嫁の耳の處へ、何か錐の尖やうなものを推付け、

「そら、今日からお前が私の氣にさからふやうな事をするとこれだ！」

併し、この酷刑が濟むと、花婿は打つて代つて優しく、

「若しまたお前が親切にしてくれるならばこうだ！」

と云つて、したゝか花嫁を接吻するのである。

結婚奇風俗

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

もある。飯を食ふのが何も罪惡ではあるまいし、人に譏れて食はねばならぬ事も無い。

◎小生は娘に眞柄と云ふ六かしい名をつけて親戚友人間に物議に招いて居る。或友人は「それは餘り殘酷だ」とさへ云つた。多くの人は「いづれ何か謂はれのおありなさる事で」と不思議な顔をする。別に何も謂はれのある譯は無いが、只小生は女の子を三字以上(即ち三音以上)にしたいと云ふのである。ウメとかハナとかヨシとかキクとか云ふのは限りのあるもので、それで女には同名の人が甚だ多い。若し女が家の内ばかりに引込んで居て、家族間の人として外、少しも世間に出ぬものならば、其家族間にさへ同名の人が無ければ世間には幾ら同名の人があつても差支は無い。丁稚はドコに行つても長松で、女中はドコに行つてもお三で濟む。然し女の地位が高まつて、廣く世間に立ち交る事となるならば、餘り同名異人が多くては混雜を生するに違ひない。女の名が二字で濟んで居るのは、畢竟女の地位の低い事を示して居るのであるから、それで小生は一番卒先して三字以上の女名前をはやらせたいと思ひついたのである。

◎尤も三字名は是れまでに珍らしい事でも無い。然し何野とか何枝とか何代とか何尾とか云ふお極り言葉を用ゐるならば、それではヤハリ變化が少くて同名異人を多く拵へる事になるから、何でも一つ珍らしい名をつけて見たいと思つた。それから色々考へて見る中に、フト胸に浮んだのは西洋の小説を反譯する時に、其篇中の女の名を、西洋ともつかず日本ともつかぬ何だか曖昧な者にした事である。例へば、原書にマルサとあるのを丸瀬として見たり、マリアンヌとあるのを鞠尾として見たりした事である。それから其風の名を段々と調べて見たが、ドウも氣に入つたのが見つからぬ。只一つ、原書にローズとあるのを、是れは意譯して茨としたのが、少し珍らしくて面白い樣に思つたので、茨にしようかと妻に相談したれば、何だか刺がある樣でと云ふ反對があつてヤメになつた。それから今一つ原書にマアガレットとあるのを眞納としたのが見つかつた

ので、是れ、是れ、是れが善いと云ふので、妻は少々不平の樣子であつたが、とう／＼それに極めてしまつた。

◎今ではマア坊マアさんで通用して居るが、態々おかしがらせようと思つて、マガラ子さん、おマガラさんなどゝ呼掛る人もある。然し小生の考へでは、今に此樣な名が決しておかしく思はれぬ時代が來ると思ふ。小生の娘は成長の後、決して父を恨まぬであらうと思ふ。

◎それについて一つ極めておかしい話がある。小生の妻の妹なる人が、或日其父の許に『明日新宿の姉さんと一しよに眞柄を連れて遊びに行くから、タント御馳走を拵へておいて下さい』と云ふ葉書を送つた。父なる人は素朴なる昔の武士で、目は惡し、手紙なんどシミ／＼とは見ぬ方の人で、然し娘共が遊びに行くの何のと云へば大喜びで待つて居ると云ふ面白い人であるので、右の手紙をチヨツト見て「ハヽア是れは娘共が新宿の近處の眞柄と云ふ處に遊びに行くのだな、それで妹の方が誘ひに來るのだらう」と早合點して「然し眞柄と云ふ處は一向に聞いた事もないが」と云ふので、ツイお向の何とやら云ふ家に聞きに行つたが「どうもソンナ處山場は聞いた事が無い」と云ふ返事であつた。然し何にせよ用意をして置かねばと云ふので、葡萄酒を買ふやら玉子をゆでるやら、其夜多少の騷ぎをして、おそくなつて寢床に入つて、善く／＼考へ直して見るとドウやらおかしい心地がする。そこで又葉書を取出して見直すと「イヤ是れはシクジツタ、眞柄と云ふのは孫の名であつたのを」と始めて氣がつき、翌朝は早々又お向ふの家に出かけて其次第を說明に及んで、我も人も大笑をしたと云ふ事。して見るとアンマリ六かしい名は付けぬが善いかも知れませぬ。

◎又此次には何か小理屈でも申し述べましよう。讀者諸君に對しては新年の御慶も略儀に致します。何卒貴兄より宜しく御傳聲を願ひます。匆々頓首。

△羽子さん、貴女は毎晩料理法を大きな聲で讀んで入らしやるねえ。一體どうなすつたの？
▲はア、何かうなんですよ、栗子さん。あのねえ。今度來た料理番は。立聞をする癖があるつて云ひますから、態と高い聲で讀んで見たのよ。

妻君の價値

井上精一

◎世の妻君達が一にも二にも料理々々と云つて、それ斗に憂身をやつすは當を得ない行動である。食道樂を讀んで、鯨の天麩羅を拵へたとて、赤堀翁の直傳で、こつてり料理を製したとて、そは畢竟するに、無益の時間つぶしに過ぎずして、夫の料理屋通ひを斷念せしめるには餘りに其力が弱い。さらば妻君の妻君たるべき價値は何れにあるかといふに、鯛の濱燒に鯉の洗ひといふ馳走でも、澤庵漬でお茶漬を掻き込むにしろ、結局は米の御飯がつきものであるといふ事を自覺するにある。粥の樣などろ〳〵したの、或は眞黑焦げなどに御飯を焚いて、米價騰貴の今日、實に申譯の無い失策であつたといふ事を氣付くにある。飯を焚くのが上手になれば、惣菜の如きは、自ら工夫が生ずるのである。飯は本なり、惣菜は末なり。余は女學校に於て料理法を教授するの方針に贊成すると同時に飯を焚く事

をも一通り練習せしめん事を希望せざるを得ない。

◎「おい烟草盆を持つて來い」と夫に言はれた時「ハイ只今」と返辭はしたが長火鉢に活けてあつた堅炭消えて螢火一つないと云ふ時に「隣の奥さんお火を一つ貸して下さいな」も遲い〳〵。「これ茶を持て來い」と命ぜられて「あのお湯が少しおぬるう御座いますから。」とは次の間での返辭として度々聞く事だが、これ妻君の價値を損ずる事莫大であつて、五分、十分の後襖を開けて三つ指てお辭儀の小笠原流も、垢抜けた御世辭笑ひも遂に名譽を回復するの効力が無い。ゆめ閑却せまじきは、長火鉢の火種なる哉である。

紫鉛筆

紫鉛筆は一寸調法なものです故、一般に用ひられ、特に小供などは好んでこれを弄びます。所が近頃に至り、この鉛筆にはメチールビオレットと申す有毒なる色素が混入して居る事が、ある學者に依つて發見されました。此毒が誤つて眼中にでも這入る時には、少くとも明を失すると云ふ程ですから、子供を持つた人は用意なさい。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

辰の歳

―カアサンのお話材料―

小野藻波

お正月だからお正月らしいお話をして下さいつて。坊やは生意氣ね、ぢやカアさんが一つ面白いお話をしてあげませう。まづ或る處にねえ。太郎と云ふ、今歳明けて六歳になつたばかりの、それは〳〵可愛い男の子がありましたとさ。

此の太郎が一疋の兎を飼つて居ましたが名を癸と云ひまして毛の眞白な、睡つて居る時などは恰で雪を固めて作つてゐるのかと思はれるやうでした。

太郎にはお友達もなく玩物もありません。只此の兎と毎日睦まじく遊ぶのが、何よりの樂でありますから、玩物だのお菓子だのを强賴つてトーさんやカアさんを困らせた事がありませんでした。

恰度卯年の大三十日の晩の事でありました。太郎が明日は元日だからと云ふので、嬉しくて〳〵、雀躍をして悦びましたが、流石は子供の事ですから、何時となしに睡氣さして、到頭阿母さんに伴れられて、床へ這入つて熟睡りました。

すると漸々夜も更けて出入の人も少けなくなりました頃、太郎の枕頭へ來て誰れやら頻りに、坊ちやん〳〵と、呼起す者がありますので、太郎がパツチリと眼を開いて見ますと、癸と云ふ可愛い兎が、羽織袴でちやんと其處へ坐つて居ますから、太郎は不思議に思ひまして、

『癸かお前何しに來たの?』と尋ねますと、兎は悲哀さうに兩手をつき、

『坊ちやん私はねえ。今晩十二時の鐘が鳴りますと、月の世界へ歸らねばならないのです。でねえ。坊ちやんが常もあんなに可愛がつて下さるから、私いつまでも坊ちまのお側に居たいのですけども、何うしても月の世界から歸れつて仕樣がないんですもの。』

とはや淚を翻して泣いて居ますから、太郎も愁しくなり、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「だつて嫌やだなあ。兎が歸ッちまつちや、僕明日から淋しくなるぢやないか。」

「坊ちまきりぢやありません。私だつて淋しくつて堪らなくなりますよ。」

「だから歸らなくつても宜いぢやないか。」

「けども月の世界から許して呉れないんですもの。」

「困るなあ。歸らないで居てお呉れな。」

「でねえ。坊ちやまが大變可愛がつて下さるつて、月の世界へ云つて遣りましたらばねえ。其麼宜い坊ちまなら、是非月の世界へお連れ申して歸れッて。坊ちやま、月の世界へ私と行らッしやいませんか。」

「さうか、僕行きたいな。カア樣が許して下されば僕行くよ。」

「おやカア樣に伺つて……」

「ア、僕カア樣に聞いてから行くよ。屹度行くよ。能いかい。」

と、これから太郎がカア樣に此事を願ひますと、カア樣は直に許して呉れましたので、太郎も兎も大悦びで十二時の鐘の鳴るのを相圖に、家を出立しました。

それから野を越え山を越えて行きますと、廣い〱見渡す限り、鏡の面のやうな海岸へ出ました。すると兎が太郎に向つて、

「これから海の上を行くのですから、坊樣を私が背負つてあげませう。」

と云はれたので、太郎も少しは恐はく思ひましたが、致方なく兎の背へ乘り、長い耳を手綱の代りに、しつかと握つて居ますと、兎は早や波の上を馳け始めました。

大きな浪や小さな波がかはる〲、中には大きい白馬のやうなのやが、雷の鳴るやうな音を立て來るものですから、太郎はもう恐ろしくて〱眼を閉ぢたまゝ兎の背に小さくなつて居ますと、其音が漸々遠くなつてしまいました。

すると、向ふにがや〱と人の騒ぐ聲が聞え出しましたので、兎はバッタりと歩みを止め、

「さあ坊ちやま。月の世界へ參りました。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云はれますから、太郎も始めて安心をして、眼を開いて見ると、そこは羞明しくて〳〵居られない位明るい處です。

太郎は幾度も瞼を擦すつてよく見ますと、何處から來たものですか、十四五人の若い侍女が奇麗にお化裝をして、四面をとり圍いて居ます。其處で兎は何やら解らない言葉で此侍女にお話を致しますと侍女等はかはる〳〵太郎の側へ來まして、

『これが、癸さんを可愛がつて下すつた坊ちやまなの？本統に可愛いわねえ。』

『はやく月姫樣の處へ伴れて參りませうよ。』

『お姫樣が甚麽にお悦び遊ばすでせう。』

など丶云ひながら太郎を抱いて、月姫樣の御殿へ伴れて參りました。

月姫樣は大層お悦びになつて、太郎をお側にお招ぎになり、色々な珍らしい物を與へまして、兼ねて兎から聞いて居らしつたものと見えて、

『太郎さんは大層唄がお上手だつてねエ。』

と仰有います。太郎は耻かしさうにして、

『僕唄なんか知らないです。』

『でも癸がさう云つて居ましたよ。』

と仰有いますと、側に居ました例の兎が長い耳を振りながら、

『坊ちやま、お月樣の唄がお上手だつたぢやありませんか。』

『ア丶お月樣の唄なら僕知つてら。』

「その唄を唱つて聞かせて下さいなね！」

『僕ね。お月樣の明るい晩には、屹度お庭園へ出てお月樣の唄を唱うの。すると癸が面白い〳〵舞を踊るんだ。君こ丶から見て居て知つてるだらう。』

月姫樣は笑ひながら點頭いて、

『ぢや癸に躍らせるから、太郎さん唱つて下さい。それに此の月の世界には、お暗ちやんと云ふ、笛の上手な盲が居ますから、其女を呼んで笛を吹かせましよ。』

とこれから、お暗と云ふ盲人を呼んで笛を吹かし、兎も鉢卷をして躍り初めましたので、太郎も面白くなつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たものと見え、可愛い鈴の鳴るやうな聲で唄ひだしました。

お月様幾才！十三七ツ！
まだ年齢や若いな。
あの子を生んで、此の子を生んで、
お千代に抱かしよ、お滿に抱かしよ。
お滿は何處へ行た？
油買ひに茶かひに、
油屋の椽に、氷が張つて
すべつて轉んで、
油一升こぼした。
その油どうした？
犬が嘗めてしィまつた。
その犬どうした？太皷に張つて叩ひて、
彼方向いちやドンコドン、
此方向いちやドンコドン。

と唄つてしまいますと、月姫様は大變お氣に入りまして、御褒美として望遠鏡を呉れました。

太郎は嬉しそうに其望遠鏡を持ち、御殿の望臺へ登つて四方を眺めますと、星の世界が碁石を並べたやうに見えますので、樂しさうに眺めて居ますと、眼鏡のさきへ黒い大きな玉の樣な物が動いて來ました。

太郎は何であらうとよく見ますと、それは太郎の生れた地球であります。まだ夜が明けないものと見えて往來の人等が提灯を提げて居ます。

もうお正月の支度も、すつかり出來、門松や國旗がちやんと飾られてありますので、太郎も何んだか地球へ歸りたくなつたものです。で其事を月姫様へ申しますと月姫様は、

『太郎さんは、何時迄も月の世界に居て貰ひたのだけども、其麼に歸へりたいのなら、龍にお供をさせて進げますから。』

『僕、龍なんか嫌やだ。兎でなくつちや。』

『兎ッて兎はもう地球へは遣らないのです。來年は龍が行く番ですから、龍を伴れて歸へつて、兎のやうに可愛がつてやつて下さい、ねえ太郎さん。』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と云はれましたので、太郎も得心の宜い子ですから、早速承知を致しました。

これから、太郎は皆の者に別れを告げて龍に乗りますと、今迄明るかつた月の世界が一時に暗くなり、ゴウ〳〵と云ふ水の音がして、瀧のやうな水柱が立ちました。すると、龍が太郎を體に卷きつけたまゝ其水の中へ飛び込みましたので、太郎は驚いて、

『ハツー』

と聲を立てますと、

『太郎ちやん。どうしたのですか。』

と太郎の母がゆり起す。太郎は眼を覺して見ると、月の世界へ行つて來たと思つたのが夢でありました。

太郎は不思議に思ひ乍ら見ると、枕頭に新らしい望遠鏡があります。阿母樣は笑ひ乍ら

『それ太郎ちやんへお年玉に進げたのです。』

と云はれましたが、まだ疑念が晴れませんので、直に兎小屋へ行つて見ますと、其處にはもう兎が居ませんでしたとさ。

巴里の猫兒學校

猫の學校などと云ふものは、お伽話の中でのみ見聞き得るものと思つて居たのに、ある巴里の眞中に近頃此の學校が建てられた。校長はボンチツテイ博士と云ふ人で、小さい時から猫が大好きだつたと云ふ。

さて其學校へ收容する猫兒の類ひは、多く住むべき一定の家のない孤兒で、誰も貰ひ手のない賣れ殘りを集めるのである。博士は素性の知れぬ此等の孤兒を大きな部屋に入れ、日々御馳走を食べさせる。教育の事に關しては博士なか〳〵愼重の態度をとり、充分の猶豫を與へて、先づ孤兒等個々の特性を發揮せしめる事に苦心するのである。

併し意外なのは　其結果で、入學した當時に於て　如何に酷ひ慘憺たる姿をした奴でも、暫時其優しい待遇に浴して、居ると、直に美しい柔らかな毛に變り、お嬢樣達の部屋へても大威張りで貰はれて行くのが多い。

運動は此學校の主なる課業の一つで、柱登り、椅子跳び、綱渡りなどの種類がある。博士がこれ等の運動を指導し敎授するには、常に溢るゝやうな親切を以て、倦むなく任に當り生徒を叱責した事は未だに一度もないらしい。と。

世に恐るべきは愛の力である。博士は事を運ばす爲に猫兒の心の中から愛の糸を引出して居る。旣に愛の糸を握つたからには、どんな事でも彼の思ひ通りに出來ぬ事はない。

娯樂と健康

近藤常三郎

一　バドミントン

これは新來の家庭遊戯で、羽子とテニスとを折衷して考出されたものでせう。從來の羽子はまことに婦人方のよい遊であるが、只其勝負が多く一人々々のことで變化に乏しい。これはテニスとおなじく、十分かけまわりて、互に隙を狙ひ、その掛引はなか〱はげしく、男子の遊戯としても多くテニスに讓らない。其方法も簡單で場所はテニスのやうに廣くなくても、又特別に費用を掛けてコートをつくるにも及ばす、普通の庭で芝生の上でも雨天後すぐに、又冬期氷れるときにでも、地面に關係なくできる。夫婦子供打まじりてピラ〱ポン〱と一勝負のうちには、淸新なる汗と喜悦の情は湧くにちがいない。私は今後の家庭遊戯として、第一にこれをすゝめねばならぬ。

用　具

一、羽子。下はゴム製上は厚き革を以て蓋はれ、其周圍に五六本の羽をかたく植えつけてある。

一、ラケット。テニス用のものとおなじ。但しすこし小さくて輕いのがいゝ。

一、網。これはテニス用のものよりは長き巾、稍短小でよろし。

一、直杆二本。長さ五六尺網をはるに用ふる。

勝　負

先づ適當の地面に網をはり（十分高く）一方に二人づゝ分れて陣をとる。次ぎにサーバー（サーバーは始めに羽子をうち込むもの豫め定めておく）は、其コートの右方より同じく敵の右方斜めに羽子を打込む。打込まれたる一方は直にこれを打かへす。或は打ち、又打かへし、幾度でも反複する（テニスとおなじ）そーして、其羽子の網にかゝるとき、又打そこねたるときは其方の敗で敵に一點とられたるわけである。勝敗は一方の得點が四點にいたりて決する。

用具は全部美滿津商店にて十二三圓のよし。併し從

來の羽子板(板を以てすこし大きく作れば尙いゝ)網は繩をはりてでも出來る。尙羽子は木片に羽を植えつけ、其周圍を綿にてつゝみ、其周りを糸にてかたく卷き、手まりのごとくすれば十分彈力もありて、殆んど眞物とはかはらずつかはるゝかも知れぬ。

二　デザボール

バドミントンよりは尙簡單で、地面もいらぬ。しかし、其勝負は却て活潑で變化があり、十分に力量を要す。熟練するに從つて興味を增し、少人數の家庭遊戲・としては却つて前者にまさる。

用　具

一、長さ一間半位の竿、平常おつかひの物干竿又旗竿にても可。

一、長さ六七尺の紐。一、ボールをつゝむ小さき網袋。一、ボールテニス用のものにてよし。

一、ラケット。テニス用のものにてよろし。なほ板を以て適宜に作つてもいゝ。

勝　負

ボールを網にいれて紐の端につけ、これを竿の上よりかたくつりさげる。竿を塲所の中央にたて、兩側にまつすぐに橫線をひく。尙竿の周りに直徑三尺位の圓を畫く。

先づ一方のもの、其球を引きよせ、ラケットを以て强く打ち、其紐を竿に卷きつけんとする。打たれたる方は、油斷なくこれを防ぎ、すぐに打ちかへして反對に卷きつくる。卷き付けられたるときは負けとなる。なほ次ぎの二三件にも背きてはならぬ。

一、中央の環内に入ることはできぬ。二、敵の陣地にある球を打つてはならぬ。三、ラケットに紐をまきつけていけない。

これも全部十圓内外のよし。併しまへにもいつたとーり、大抵は手製で十分使用ができるとおもふ。試みに一月早々より御實行あつてはいかゞです。おすゝめ申す。

三　年の遊

『オヤ〱お隣りの夫人が。』『ハイみんないつしよに

お遊にまいりました。』『アラ遊戯……』『うれしいな。』『それでは。』と主人ははや庭におりかけた。（餘程の遊びずきと見える。）』『さあ坊ッちゃんもなさいますか。』『こんばんおもしろい年の遊をね。これはまるで十四人あればいゝです。』（なければ一人で二ッ三ッの役をかねてもいゝ。）『この内一人が時の神。又一人は年の神になる。それから順に一月、二月、三……十二月まで、それ〴〵の役をきめる。役がきまれば皆手をとり、圓くなつて一寸お辭氣をして、何かうたつてくる〳〵と回る。一つの歌がすめば止まり、すぐに時の神は中にで、

『私は時と申しまして、世界の初めより終りまで、すこしもやすむことなく正直に働いております。精出す人には仕合を、無性者には不仕合を與へます。人はみな私の速力が早いなんて申しますが、これは當りまへのことです。ナニサグヅ〳〵しているものを待つてはいられません。あなた人間社會にさへ汽車ができ、電車がとーつてゐるではありませんか。イヤナンのカンのといつてゐるうちに、まうはや三十七年になりましたわい。』と云つて時はもとにかへる。次ぎには年の神。

『ハイ私は年の神、昨年中はいろ〳〵お世話さまでございました。今年も仲よくせいだして働き、おもしろく暮らしませう。』（それから月の神、一月）

『ヘイ〳〵私は一月、なか〳〵いゝ月です。小供達は紙鳶をあげ、羽子をついて、にぎやかに遊んでくれますので、又私のことを睦月とも申します。併し、みなさん、只一月だといつて、遊んでばかりいてはなりません。一年の計は一月、一月の計は元日にありと申してあります。』

（つぎは二月さん。）『ハイ私のときには大層雪をふらして野山をきれいにしてあげます。みなさん方、雪合戰でもして下さい。ストーブのそばばかりに居たら、私はすぐに風の神をやつて風邪をひかしますよ。おい〳〵には梅の花も咲かしまして鶯もなかしておみせ申します。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(三月)『私もすこしは雪を待つてゐますが、おい〱暖かにして桃や櫻もきれいにさかして、まづ〱一年中一番い丶月。坊ッちやんや孃さんもしつかり遊びにきて下さいな。』それから四、五、……十一、田植、夏休み、海水浴、菊、紅葉、天長節、など大体其月々に相當したることを考へのま丶にのべ、おはりに十二月、

『ハイ私はおい〱時候も寒くなりまして、平生怠つていましたものはなか〱困る。併し、勉强家や小供しうはよろこんで一日のくるのを待つているでせう。』次ぎに、時の神(又年の神でもい丶)

『ハイこれで一順すみました。みなさんおめでたう。』『おめでたう……』

みな手を引いて歌い乍らまへのやうにくる〱回る。

唱歌は、桃太郎でも、『浦島』でも、小供のよく知つてるものがい丶。年月に關係したるものなれば更に妙。

四　福笑ひ

『誰か手拭で眼をかくし坐頭におなりなさい。』『あたし！』『僕！』『そこで』(豫め紙捻で顔中の道具、假へば鼻、眉、眼、口などの形をこしらへ、これを一ッづ丶其名をとなへ、順序はいろ〱にかへて坐頭に渡す。坐頭はこれを受取りて思ふやうにおき、顔の形をつくる。)

『サア渡すぞ』『ソラ顔』(これはいつも最初に)『口だ……』『耳……』『鼻……』

『よろし眼をあけて。』『オヤ〱口が耳の下！』『眼が一ッ頭の上ですね。』

『なんだ鼻がないぞ。』

『イヤ耳といつしよに？』

『マア……』

『妙なお福！』

これは滑稽的のおもしろい遊戯です。紙捻でこしらへる代りに、紙に顔の形をかき、之れを切りぬいてもい丶。又石盤白紙に石筆、筆を渡して、一ッづ丶か丶してもい丶。必ず抱腹絶倒に堪えぬものができるにちがいない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

スクラップブック

折節の世間の論議、說話、何に限らず、一人でも餘計に見せれば、それ丈徳があると云ふ種類のものを選んで、この欄に揭げます。

一　花の課

花の課は大日本婦人矯風會に新に加はつた一課であります。名稱の如く誠に美しく誰にも出來易き事業です。凡て婦人の溫き誠心と眞の同情とを以て、病める者、苦しめる者、貧しき者、淋しき者、世より捨てられたる者の優しき友となり、種々の方法を以て彼等を慰め、助け、導き、勵まし敎へて、其精神と肉體とに入用な物を供給するのが此課の目的であつて、言を換へて云へば愛の課であります。

本課の事業は本より廣きもので有りますが、まづ何人でも容易く出來る事は左のことであらうと思ひます。

一、小さき花束(二三輪)を作り、白リボン或は白き打紐を以て之を結び、小さき聖句の札を添えて、病院、孤兒院、感化院、監獄、養育院等、苦しき淋しき日月を送る人々、或は近隣の病人貧民等に送つて、之を慰めること。

一、散藥の包紙の形に紙を切り、其中に聖句又は詩歌等を記して、包みのやうに折り、三十一日分を小さき絹或は何でも美しい布地の袋に入れ、表に「日毎の慰」と記して病人に送る。そして病人に毎朝一包づゝ開いて讀ましめること。(婦人新報)

記者曰ふ。誠に淸新な組合ではありませんか。特に包紙の意匠は趣味津々たりとでも申すべきか。

二　一家一ヶ月平均支出額

我國民の一家の平均の支出は、一ヶ年に二百圓であつて、一家五人とすれば一人四十圓、一ヶ月三圓餘、一日十錢、是で衣食住の費用を支辨せねばならぬ。而して食費は一人一日凡そ六錢に當る。して見ると、一度の食事が二錢である。此物價高直の今日に於て、二錢では滋養になる物を喰ふことが出來ない。これに付けても、日本人は働いてもつと收入を增し、滋養分を食し、生活を高める必要がある。其身體を丈夫にする是が一日十錢とは情けない。西洋人は極々下等の者は別として、一般に小供が生れると牛乳を用ゐ、稍成長すると、ビフテキ等を常食して成長するのだからかなはぬ。これからの日本人は無益の費用を節し、食物の方にもう少し金を出し、良き品物を食うやうにせればならぬ。冗費を節すると云ふは實に必要である。其節約は無用の費を節して、有用の費に供せんが爲めである　近來勤儉貯蓄といふ說が起る。成程日一日と驕奢に流るゝ今日では、是も必要であつて、無論我輩も贊成であるが、何も勤儉貯蓄といふのは、今日の發明でも何でもない。伊太利の經濟學者が云つた言葉がある。「錢あらば銀行に貯蓄せず、腹に貯蓄せよ。胃腑は貯蓄銀行中最肝要なる銀行である。」と。

我々は貧乏な癖に形式に流るゝと云ふ惡癖があつて、總て外形に重きを置く、一寸とした事で、外國人は金時計を持つて居る者は割合に少ないのに、日本人には金時計金鎖を持つて居る者が、比較的に多い。此の如き民度に適せぬやうな驕奢は無論止めればならぬが、無暗と勤儉貯蓄を勸め、食ふ物も喰はずに金をたさせるといふことは、今日の實況我輩は甚だ不贊成である。

記者曰ふ。これは中央公論に於ける寺田勇吉氏の主張である。轍頭轍尾贊同せざるを得ない。次回には粗食に就いて、一文を草しやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

編輯机上より

祝辭、謝言並びに開陳

目出度く新年を迎へました。小生は堺氏を始め本誌の特別寄書家諸氏を代表し、大方の諸君に對して新春の賀辭を述べる事を、甚しき光榮と存じます。思ふに新年の家庭は一年の中で最も美しい時でせう。寂しき家庭は賑ひ、悲慘の影多き家も此日ばかりは笑ひの聲に滿ち、平常面白い家は、又一層の樂しさを增すのであります。新年早々からつまらぬ理屈や道理などに時間を費すのは不祥の事です。新年は宜しく遊ばねばならぬ、浮かれねばならぬ。笑つて苦勞を忘れねばならぬ。繪葉書もよい。カルタも好い。追羽子も好い。芝居もよければ旅行もよろしい。新年に遊び過したと後悔する事はない。何となれば固より遊ぶ時に出來て居るから遊ばぬのは却て理に當らぬ。何卒愉快に此新年を過し、一年中の勇氣と堪忍力とを養はれん事を希望致します。

來る新年號には嶄新な方面を以て編輯致すとの豫告に對し、甚だ恥入つた次第であります。實は一家庭中の會員、即ち夫、妻、子供、老人召使、とかう云つた風に、一々部類を別けて、記事を選ぶのが本意であつたのだが、希望通り出來なかつたのは大に殘念、こゝに改めて讀者諸君に謝する處であります。

本號から插畫を加へ、幾分か其方面に趣味を付ける考へでもありましたが、到頭實行を見る事を得なかつたです。二月發行の分からは、是非共實行します。一体插畫など、云ふ物は、これを實用向から申せば左程に必要とも思はれない。併し物事は一にも二にも實利實利では一向に面白味が湧かぬ譯です。

歲月が革ると云ふ事は、精神の上に大なる影響を及ぼすものです。一体人間は物に倦み易く、常住不變の精力を保つて行く事は、餘程の大人物でなければ出來ない相談です。新年は自分達にとつて此上もない發奮劑で、大方疲れを催して來た原を、向ふから堰止めて呉れる非常な力を持つて居ります。どうかこの新しい勇氣に導かれて、この重き任務をより完全に盡したいものです。

かく覺悟して前途を見れば、美しい曙の光を遮つて居る障害物が、如何に澤山な事でありませう。この夥しい障害物を取除けるに當つて、家庭の事に携はつて居る者の負擔額も決して少々ではありません。即ち完全無缺といはすとも少くとも目下の標準點より進んだ

新家庭を、最も多く國中に散在せしめるに就いて、四方から群起して來る反抗や不平やを吟味し、解剖し、若くば同情して、進んで世間に發表せねばなりません。世間に發表して輿論を作らねばなりません。政事家や廟堂の有司は、何時も眼光を大局に濺ぐ必要がありますか、家庭雜誌の記者は、また極々徴細な所に目を付け、そして、大きな問題となるべきものを拾ひ集める必要が御座います。尙は申上げまする事は澤山ですが、前以ての披露は餘りしますまい。

報知新聞社の食道樂 村井弦齋氏著であります。今度第三編として、秋の卷が發刊になりました。口繪に天長節夜會の彩色畫があり。内容を一覧するに、本編は大抵西洋料理法の講義であつて、措辭平直、家庭文庫には是非共一本を備へて置かねばなりますまい。無論切り詰めた收入で、窮屈な生活をして居るわれ〳〵社會には、餘りの貴族的で、如何かと思ふ節もないではないが、兎に角これからの家庭の主婦たるものは、一應西洋の料理法を心得て置く必要があります、前項にある通り、目下の日本はいやでも、今少し生活の程度を高めねばならぬ。それを高める上に於て、最も急なのは食物である。由來我國の或種の家庭では、粗食する事を以て質素となし、儉約と看做して居るのがありますが、これは甚しい本末の轉倒、儉約と生命とを交換するやうなものでせう。小生はこの邊から考へて來て、大に美食の必要を主張します。『食道樂』一編、また强ち貴族的とばかり云つて顧みぬ事もなりますまい。

新刊の家庭清話 堀口翠嶺と云ふ人の譯書です。一寸覗いた丈ですが、なか〳〵面白さうな題目がある。譯筆も清新で、引しまつて居るやうです。定價は二十錢、京橋銀座敎文館からの發行。

冷水浴の功力 但馬の田中常次郎君に申す。小生は冷水法の方が効力偉大だと云ふ事を聞きました。始終風邪に冒されて居る皮膚の弱い者にはこの皮膚修練法が一等でせう。尤も俄かに初めてはならぬ。夏頃から引續いて實行しなければ却て害になる事もあるのです。尙ほ本號に運動法が揭げてありますから御一讀を乞ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社告

家庭雜誌合本第一卷

定價金五拾錢——郵稅八錢

今同讀者諸君の御便宜を計り、本誌初刊第一號より第九號迄全九冊を取纏め、クロース製にて美麗に合本致しましたから、續々御注文下さいまし。尚は當分の内なばれ缺本なき故、一冊宛の御注文にも應じます。

合本要目

▲第壹號（四月三日發行）（三版）

▲本紙の特色▲我輩の根本思想▲動物虐待防止會▲ユートピアの話▲イソブ教訓談▲家庭文庫の必要▲古書新書▲娘の學ぶべき事▲僕にもオバアさんが欲しい（讀切小說）▲倫敦の日本料理▲編輯及發行事情等

▲第二號（五月二日發行）（三版）

▲茨の花（漫吟）▲子なき人に與ふる書▲老人問題▲家庭の消息海豹と人との交（畵入）▲梟の一家族（滑稽畵）▲偶感▲夕日岡園遊會の記▲菊坊のお話等

▲第參號（六月二日發行）（三版）

▲新天地（漫吟）▲隅田川邊の好家庭▲ワシントン及其母（肖像）▲鼠の失策（滑稽畵）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲結婚離婚の統計▲天文の話▲家庭の消息▲匆々一筆等

▲第四號（七月二日發行）

▲三つ子の感化力（讀切小說）▲不二彥（肖像）▲柿山伏（狂言）▲猪とクヅ鹿（滑稽畵）▲偶感▲讀者の顧問▲樂しき生活▲加藤邸晩餐會の記▲倫敦雜話等

▲第五號（八月二日發行）

▲子供の導き▲細君の說法▲小猫の生理（畵入）▲新案四頭立犬車（滑稽畵）▲望みと疑ひ▲苦痛と不平▲ウソツキ卯太郎▲夫婦の孰れが多く貞實なるか▲世界奇聞▲一口話▲「まだ見ぬ親」梗概等

▲第六號（九月二日發行）

▲百年後の新社會（ベラミーの名著ルッキング、バックワードを縮譯して社會主義の理想を具體的に（小說の形にて）示す

▲第七號（十月二日發行）

▲家庭の道德▲結婚に就ての所感▲盆栽に就ての所感▲女皇陛下萬歲▲蟲のはなし▲花と家庭▲倫敦雜話▲長子相續法▲夫に不正の行爲ありたる塲合▲家庭文庫等

▲第八號（十一月二日發行）

▲人道主義▲家庭に於ける放縱の辨▲小供の名の附け方▲三郎の出世▲ホーム錄▲かくれんぼ▲食事中の時間▲お竹どんの牛乳▲花と家庭▲お伽噺▲衞生の話等

▲第九號（十二月二日發行）

▲酒に對する僕の所存▲家庭革新演說會傍聽記▲家庭遊戲▲家庭がり▲戰の物語▲下婢問題▲カアサンのお話材料▲花と家庭▲日本の子供▲アングロサキソン民族の敎育等

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

堺枯川、幸德秋水編輯

平民新聞

社會主義の思潮に接し**平民主義**の氣焰を見んと欲する者は本紙に來れ

新年に入るに及んで**筆端愈健**か也

▲定價二十部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、總べて郵税を要せず

▲**見本** ●●●●●●●●●●に限り郵券三錢にて送る

▲**毎日曜發行** 新年初刊第八號（三日發行）

發行所 東京麴町區有樂町三丁目一番地 **平民社** 電話本局三三六三

飯倉四ツ辻 飯倉支店 電話新橋一五七四番

赤坂表一丁目 赤坂支店 電話新橋二〇六八番

四谷大通り 四谷支店 電話番町五一〇番

牛込神樂坂 神樂坂支店 電話番町六三〇番

本鄉一丁目角 本鄉支店 電話下谷七二番

神田須田町 須田町支店 電話本局二〇七三番

銀座一丁目河岸通り

帝國貯蓄銀行

（電話 新橋）八一六番 二八〇八番

兩國米澤町 米澤町支店 電話浪花二五九〇番

淺草吾妻橋通 吾妻橋支店 電話下谷七三番

南品川一丁目 品川支店 電話新橋一一三九番

橫濱吉田町 橫濱支店 電話橫濱一三〇四番

日本橋坂本町 代理店 田中銀行 電話浪花二四〇番

家庭の常備藥

腦力を明快にし永年の腦病を全治す

腦病

腦病にて耳鳴。目かすみ。逆上して便通少なき人男女とも常に頭痛にて苦しむ人婦人血の道にて頭痛眩暈し氣鬱ぎ悲しみ易く怒り易き人其他常に腦を勞する人及び神經家は常に持藥として此藥を服用せらるべし

頭痛靜靖丸

藥價 金壹圓 金五拾錢 金参拾錢 金貳拾錢 金拾錢

頭痛

永年の腦病、神經病も必ず全治し、又此藥は病症の何たるに拘はらず總ての頭痛に特効あるを以て家庭の常備藥として貯へ置かば當に自家不時の要に供するのみならず時に人助けとなることあるべし

東京日本橋區藥研堀町
電話浪花二九三〇番

高木與八郎

外科皮膚病 梅毒 痳疾 外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際 出雲橋 **加藤病院**

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺。火木土午後三時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

東京神田區駿河臺鈴木町二番地(御茶水橋畔)

東洋内科醫院

電話本局八八八番
一三八五番

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷後隨時應需、火木土曜、窮者施診○病室增設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱
(停車場所在)

南湖院

副院長 醫學得業士 林止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日午前、但日曜日大祭日休業、入院診斷後隨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地
(市ヶ谷停車場附近)

高田病院施診所

主任 醫學士 松田三彌

診察 毎日午前、但日曜大祭日休業、窮者ニ施診ノ上其病名及養生法ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第一號　明治三十六年四月二日第三種郵便物認可　明治三十七年一月二日發行

增補註釋 食道樂

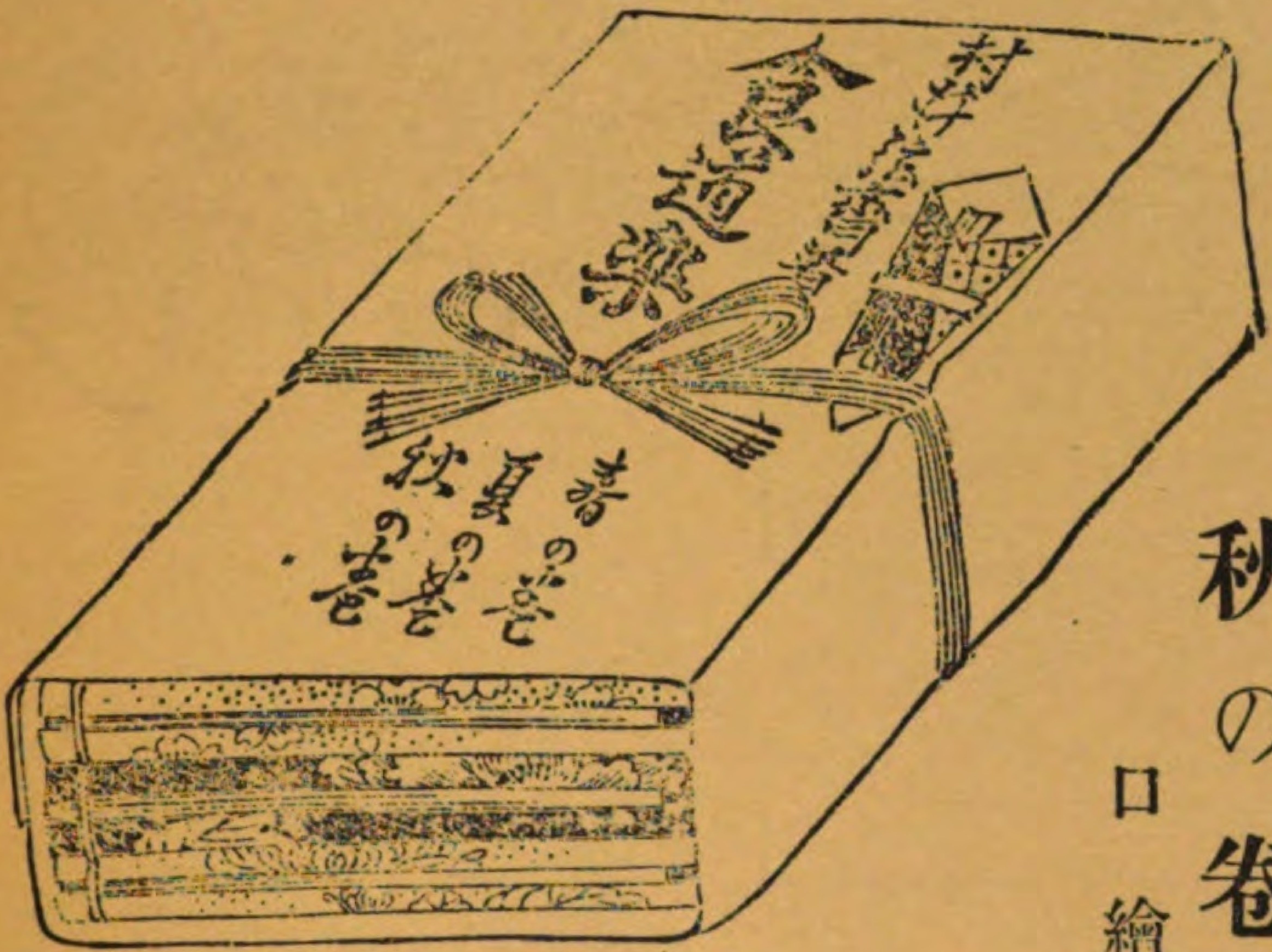
秋の巻出版

口繪……天長節夜會食卓眞景

十二月十五日發行 忽ち十版を重ぬ

正價 一册 金八拾錢宛

郵税 市内五錢▲地方十錢▲臺灣三十錢 米國開封廿六錢▲清韓國三十錢也



●鮎の味●鮎料理●犢のチヤプ同シチウ●昆布スープ●カピヤカナペール●鳥スープ●米と鳥のスープ●鮎と犢●鮎のフエタス●ジブレグレーオーコロトン●魚のケズレー●雞の雛●人工孵卵器●鳥料理●臟物料理●雁臟料理●アスペラガスの料理●羊のロース●病人料理●デプロマーテ●梅の煮方●シロツプ●ジヤム●梅素麵●菓物の効●コーヒーアイスクリーム●食物研究會●料理見物●玉子鍋の應川●カステラ●玉子の泡立法●玉子の雪●玉子菓子●ビスケツト●蕎麥の菓子●玉子蒸し料理●玉子デデン●南瓜プデン●オムレツ●合ひ物●食物喰べ合せ●南瓜料理●南瓜の三杯酢●同葛掛●同丸蒸し●同プデン●野菜の煮物●白ソース煮●茄子料理色々●冬瓜の鹽漬●同胡麻酢●魚のグレー●鰻のシチユー●鰌のフライ●鮎の酢煮●同三杯醬油●同甘露煮●鯨の辨當●鮎の鮨●サンドウヰツチ色々●印度風のライスカレー●ライスカレー●海老のサラダ●フランチソース●ソーダ松魚●ヘツト製法●ソーダ松魚の區別●同摺身●同食煮●同蠟燭煮●鯵料理●鯵の酢煮●同酢の物●同鯵蒸し●白レース掛●同味噌燒●同醬油干し●泡雪ソース●ロールキヤベツ●ドーナツ●ロールパン●食物の成分●家鴨料理色々●胃と腸●西洋の葛餅プラマンヂ色々（其他數十種）

▲附錄には米料理百種（五十種日本料理 五十種西洋料理）▲パン料理五十種あり

◎春の巻 二十三版（口繪大隈伯爵家臺所眞景）

附錄 日本人一日の食物表▲日用品分析表▲料理法の書籍▲臺所手帳

◎夏の巻 十二回增版（口繪岩崎男爵家臺所眞景）

附錄 西洋食器類價格表▲西洋食品價格表▲臺所の手紙

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA